

図3、投与群・非投与群の登録者数

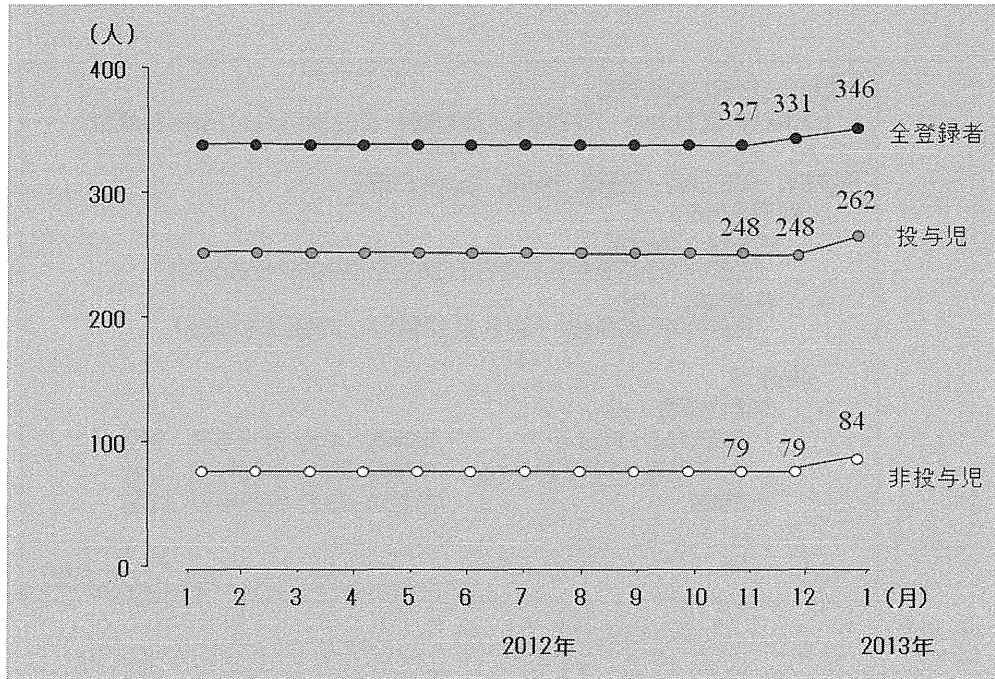


図4、投与群、医師確認の反復性喘鳴の有無

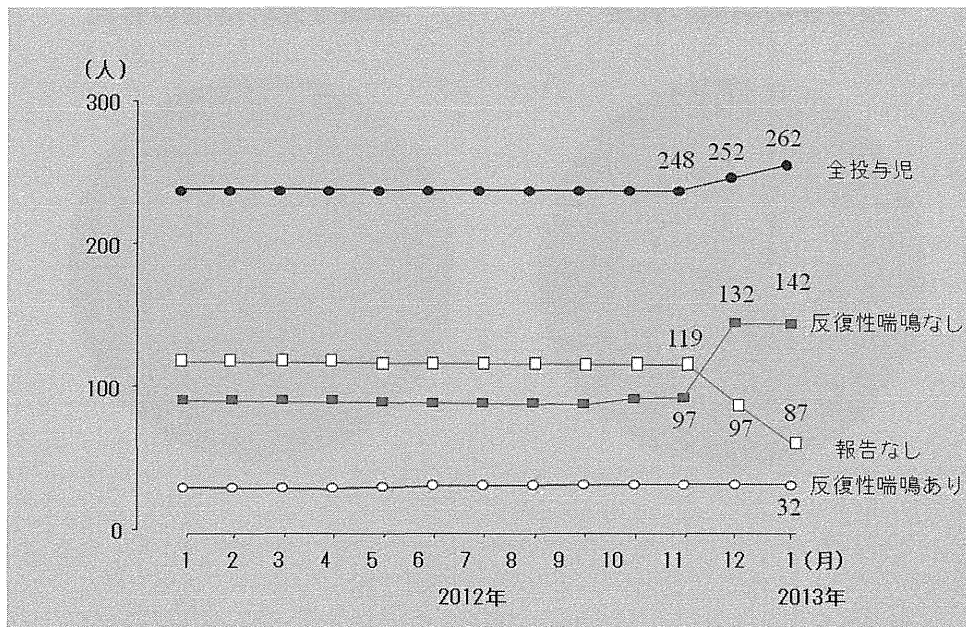


図5、非投与群、医師確認の反復性喘鳴の有無

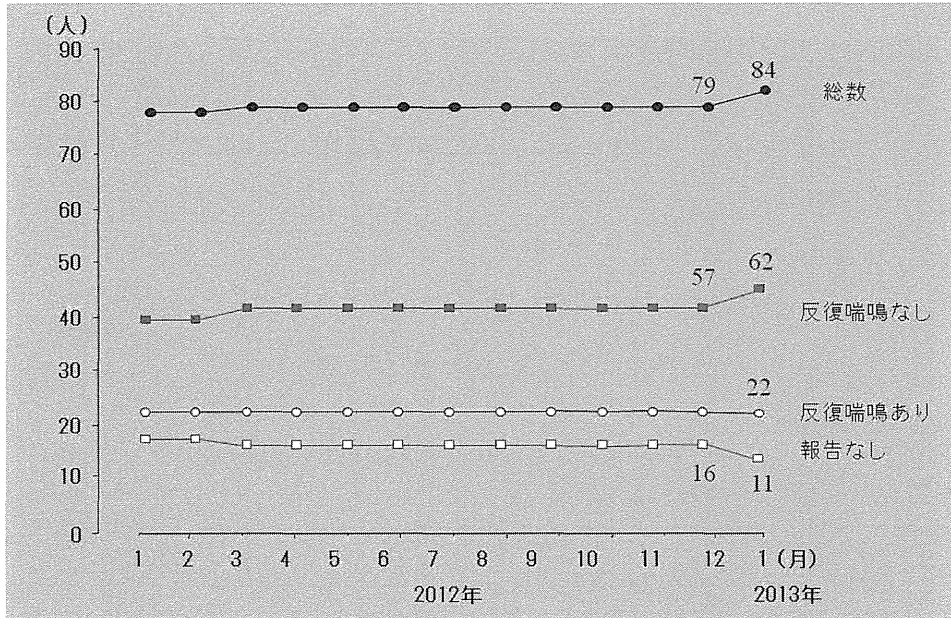


図6、投与群、医師確認の喘鳴の有無

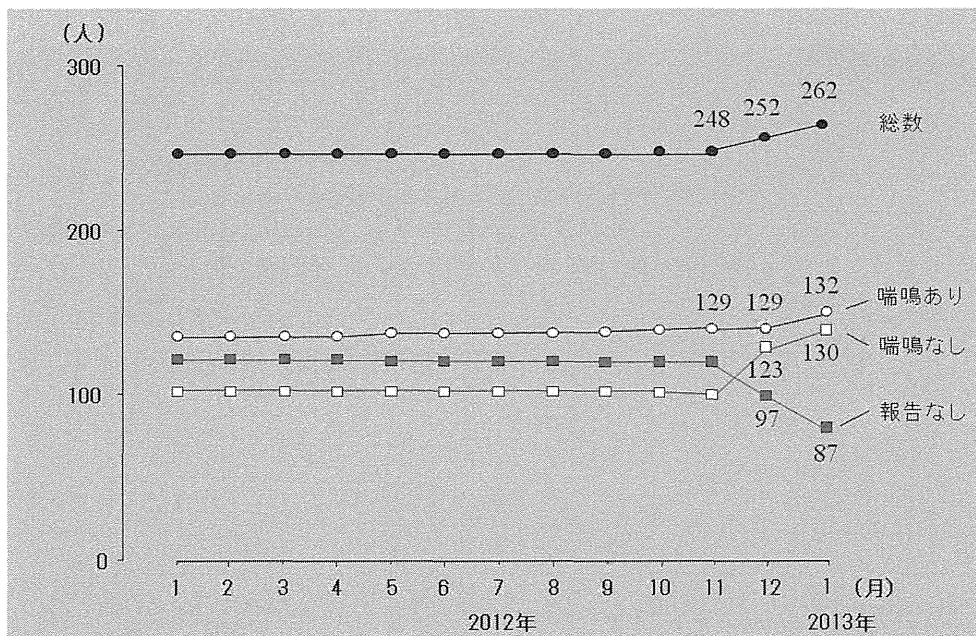


図7、非投与群、医師確認の喘鳴の有無

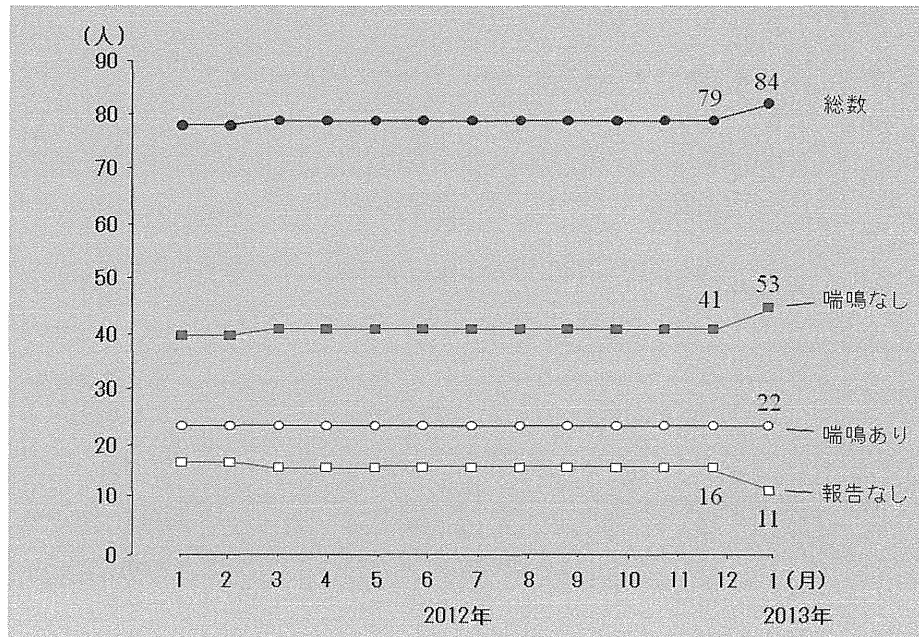


図8、投与群・非投与群の反復性喘鳴無しの比率

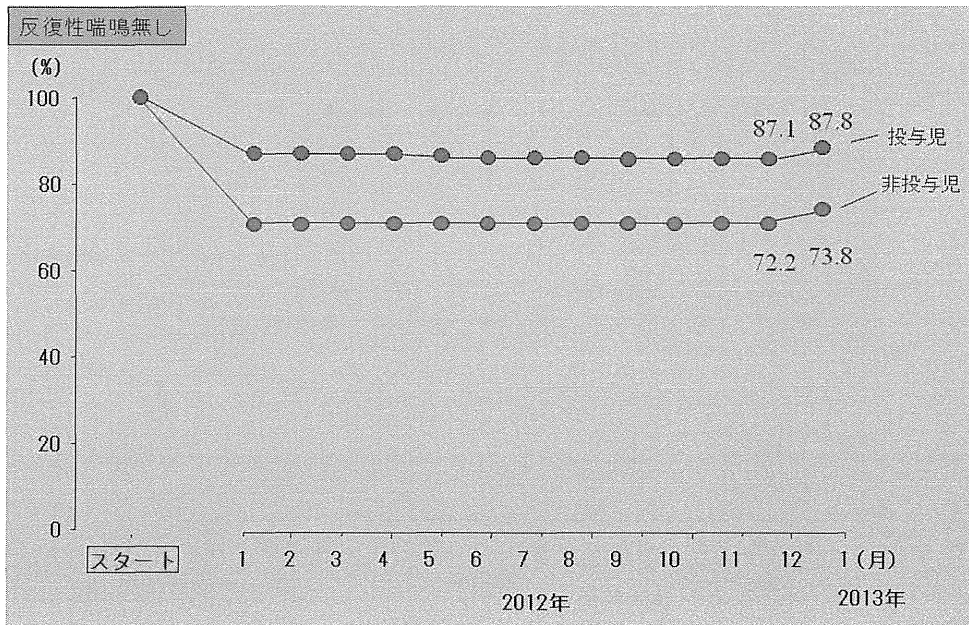


図9、投与群・非投与群の喘鳴無しの比率

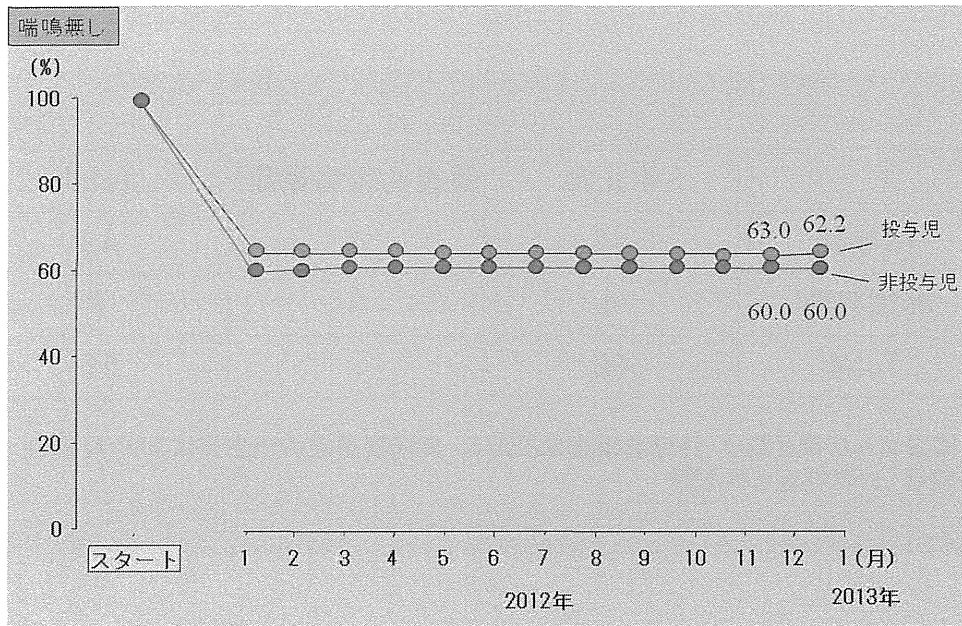


図10、SCELIA: 現在の問題点

	「SCELIAカード報告なし」
<b>投与群</b>	<b>120 (34%)</b>
<b>非投与群</b>	<b>16 (17%)</b>
<b>Total</b>	<b>136 (31%)</b>

図11、「SCELIAカード報告なし」で追跡調査不可、もしくは不要な56例

	中止例	反復性喘鳴発症*	Total
投与群	45	4	49
非投与群	4	3	7
Total	49	7	56

\*: 保護者への聞き取り、診断書提出など元に、実務委員会の先生方により、反復性喘鳴(+)と判定された例

図12、「SCELIAカード報告なし」で追跡調査中の80例

	受診あり	受診なし	未回答*	確認中*	Total
投与群	48	1	12	3	64
非投与群	8	0	7	1	16
Total	56	1	19	4	80

\*: 「未回答」および「確認中」の23例については、保護者からの明確な回答を未だ得られていない。

図13、「SCELIAカード報告なし」の調査・アンケート結果

SCELIAカード報告なしの理由	データの個数 / 再調査要	
	理由	集計(数)
SCELIAカード提出忘れ	1	3
主治医の先生にカードへの記入をお願いしにくい。もしくは、お願いしても記入していただけない。	2	8
受診をしたが、呼吸器系ではなかったためSCELIAカードの記入がない。	3	17
呼吸器系の疾患で受診したが、呼気性喘鳴と診断されなかった。	4	10
病院・開業医を受診したことがない。	5	1
その他*	6	22
未回答	7	19
	総計	80

\*: 「6 その他」については、保護者から明確な回答をまだ得られておらず、引き続き、調査中である。

図14、投与群、非投与群の喘鳴、反復性喘鳴の比較

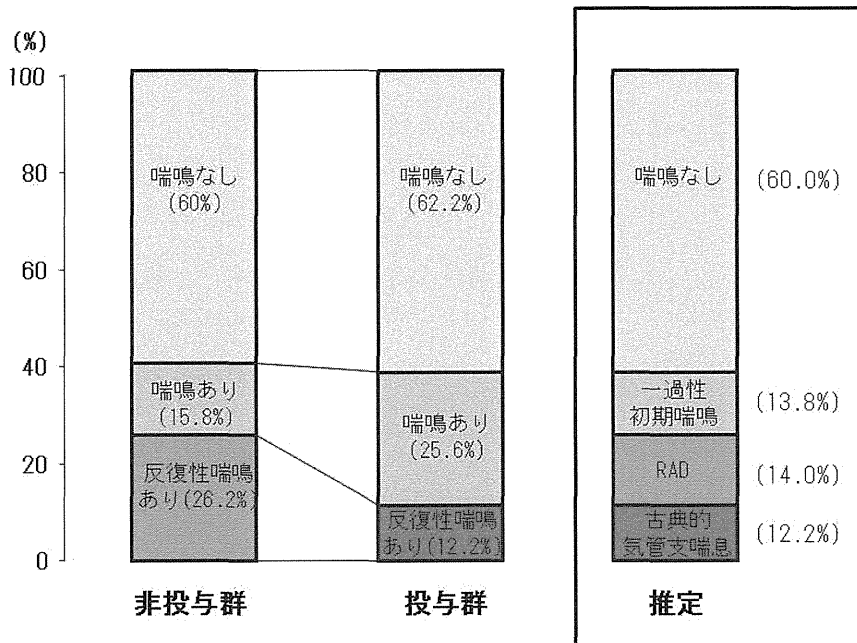


図14、SCELIAの平成25年度の予定

2013/4/1 作成

SCELIA 年間業務計画 (期間: 2013.4~2014.5)

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
アンケート	→													
アンケート個別対応 (メールが使用できない保護者向けに書式送付・ファクス受取・データ入力)	→													
SCELIA Card 収集・データ入力	→													
SCELIA Card・返信用封筒 追加送付 (既入欄の満期がなくなった場合)	→													
健康診断・血液検査依頼&調整 (施設宛/手帳・対象者のご案内)	● 依頼状送付	← 採血期間 →												
健康診断・血液検査依頼&調整 (保護者宛/手帳のご案内・スケジュール調整)		→												
血液検査結果送付 (施設・保護者宛)	→													
保護者情報更新 (メールアドレス・住所・電話番号変更)	→													
保護者・施設 問合せ対応	→													
同意書取得 (未提出12名の保護者に個別に連絡)	→													
満6歳時サポート費精算 (Quoカード送付)	→													

#### IV. 研究成果の刊行に関する一覧表

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
福村明子 望月博之	【ウイルス感染の治療・予防の進歩】RS ウイルスの予防は喘息の予防 パリビズマブの新たな効用	化学療法の領域	28(3)	440-446	2012
望月博之	【最近 10 年で最も進歩した研究分野を検証する】小児喘息の病態、	呼吸	31(9)	853-856	2012
望月博之	乳幼児喘息、RS ウイルス感染と 5 歳以下の喘息	日本小児アレルギー学会誌	26(1)	177-184	2012
吉原重美 金子賢太郎	小児のウイルス性細気管支炎	呼吸	31(9)	785-790	2012
吉原重美	乳幼児喘息 乳幼児の気管支喘息における early intervention	日本小児アレルギー学会誌	26(1)	168-175	2012
吉原重美	喘息と感染症 気管支喘息の発症と RSV 感染	日本小児アレルギー学会誌	26(3)	474	2012
楠田 聡	【分子標的薬-がんから他疾患までの治癒をめざして】臨床研究非腫瘍性疾患の分子標的薬、RS(respiratory syncytial)ウイルス感染症	日本臨床	70(増刊8)	579-582	2012
楠田 聡	早産児の RS ウイルス感染症対策 新ガイドラインを受けて	産婦人科の進歩	64(1)	72-75	2012



RS ウイルス気道感染予防によるアトピー型気管支喘息の  
発症抑制効果に関する研究

平成 24 年度 総括研究年度終了報告書

平成 25 年 5 月 2 日

受託者 住所： 神奈川県伊勢原市下糟屋 143  
東海大学医学部専門診療学系小児科学

氏名： 望 月 博 之

厚生労働科学研究費補助金  
免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業

